

## 「地理歴史（日本史）」の出題の意図

問題はいずれも、①日本史に関する基礎的な歴史的事象を、個別に記憶するのみならず、覚えた事実を互いに関連づけ、統合的に運用する分析的思考を経た知識として習得しているか、②設問に即して、受験までに習得してきた知識と、設問において与えられた情報とを関連付けて分析的に考察できるか、③考察の結果を、設問への解答として、論理的な文章によって表現できるか、を問うています。つまり、歴史的な諸事象について、それがなぜ、どのように起こったかということや、相互の関係や影響にかかわる、理解の深さと論理的表現力を測ろうとしています。

第1問は、日本古代における中国文化受容のあり方を問うものです。7世紀と8世紀では中国文化の受容に質・量ともに大きな変化があることに気付き、その背景に唐を中心とする東アジア世界における日本の位置づけの変化があったことを考えてもらうことを意図しています。

第2問は、室町幕府の土一揆対策に関する問題です。幕府の土一揆対策を通じ、15世紀に土一揆に参加した人々が結んでいた結合のあり方や社会関係について考えてもらうとともに、幕府がこれを前提に具体的にどのような対策をとったか考えてもらうことを意図しています。

第3問は、関ヶ原の戦い直後の徳川家康の政務のあり方と東海道整備の関係、および将軍と大名の間の主従関係を確認する手段としての参勤の意義について問うものです。関ヶ原の戦いから大坂の陣までの政治状況に留意して、交通路の整備と大名の参勤という事柄を通じて幕藩体制の確立について考えてもらうことを意図しています。

第4問は、明治・大正期の音楽教育の背景、意図、成果について問うものです。明治時代に日本を訪れた外国人たちは、日本の音楽が西洋のそれとはまるで異なっていることに驚き、それを拙さや遅れとして理解しました。このような19世紀の西洋中心主義的な視点を内面化するようにして、日本では西洋音楽の技法を導入するための諸制度を整え、その結果として現在にも連なる音楽に関わる価値観が形成されていきました。この問題は、その過程から日本の近代化の特色を考えてもらうことを意図しています。